

## A B C 再算定の魚種別の実施方法

魚種名(系群): その他魚種

### 1 A B C 算定と T A C 設定

すけとうだら(日本海北部系群・太平洋系群)、ずわいがに(日本海系群、太平洋北部系群)、さんま、まあじ及びするめいかの資源評価については、秋季(10月頃)に行われる当初評価及びルーチン再評価を基に当初 T A C 設定及び、必要に応じて T A C の期中改定を行う。

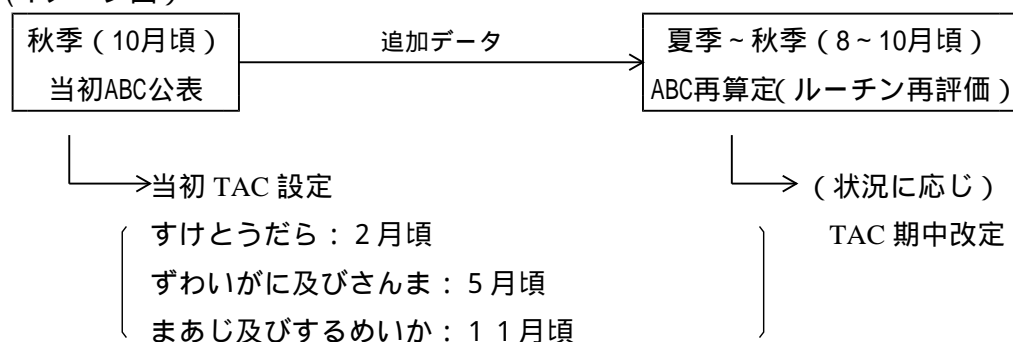
#### (1) 当初 T A C 設定

秋季に公表された当初 A B C を用いる。

#### (2) T A C 期中改定(必要に応じて実施)

秋季のルーチン評価作業の一環として行う。

(イメージ図)



### 2 A B C 算定の方法及び実施体制

#### (1) 当初 A B C

ルーチン作業による毎年度の資源評価の一環として従来の検討体制を基本に実施して算定する。

データの種類

・すけとうだら(日本海北部系群)

漁獲量: 北海道区水産研究所(以下「北水研」)および日本海区水産研究所(以下「日水研」)が集計した沖底統計並びに関係道県の水産試験研究機関が集計する沿岸漁業漁獲量データ(前年4月~当年3月)。

努力量: 北海道根拠沖底統計および北海道立水産試験場(以下「北水試」という。)が集計する沿岸漁業努力量の前年4月~当年3月のデータ。

漁場: 沖底統計および北水試が集計する沿岸漁業 C P U E 等の前年

4月～当年3月のデータ。

漁獲物のサイズ：前年度までのデータに北水試および北水研等により収集された当年3月までのデータを適宜追加し活用。

体長年齢関係：北水試および北水研等で耳石解析や体長組成解析等により得られる体長年齢関係のデータ。

資源量：前年4月～3月の年齢別漁獲尾数に基づき、北水試が行う親魚現存量調査結果によりチューニングを施したコホート解析により推定。

・すけとうだら（太平洋系群）

漁獲量：関係道県の水産試験研究機関が集計する沿岸漁業漁獲量データ並びに北海道区水産研究所（以下「北水研」）および東北区水産研究所（以下「東北水研」）が集計する沖底統計のデータ（前年4月～当年3月）。

努力量：北海道根拠沖底統計の前年4月～当年3月のデータ。

漁場：沿岸漁業の漁獲量等のデータ及び沖底統計の前年4月～当年3月のデータ。

漁獲物のサイズ：前年度までのデータに北水試および北水研等により収集された当年3月までのデータを適宜追加し活用。

体長年齢関係：北水試および北水研等で耳石解析や体長組成解析等により得られる体長年齢関係のデータ。

資源量：前年4月～翌年3月の年齢別漁獲尾数などに基づき、北水研が行う新規加入量調査結果および沖底 CPUE によりチューニングを施したコホート解析により推定。

・ずわいがに（オホーツク海系群）

漁獲量：沖底統計および北海道水産現勢の前年7月～当年6月の漁獲量データ。

努力量：北海道根拠沖底統計の前年7月～当年6月のデータ。

漁場：北海道根拠沖底統計の7月～6月のデータ。

漁獲物のサイズ：甲幅90 mm以上のオスのみが漁獲対象。

資源量：利用可能なデータなし（調査船調査による調査海域の分布情報は蓄積されているが資源量としては取り扱えない）。

・ずわいがに（太平洋北部系群）

漁獲量：前年12月～当年3月の県別の漁獲量データ。

努力量：沖合底びき網漁業の福島県漁船の漁獲成績報告書及び標本船のデータ。

漁場：沖合底びき網漁業の漁獲成績報告書のデータ。

漁獲物のサイズ：使用せず、調査船の採集物の甲幅組成を代用。

体長年齢関係：年齢が不明で、甲幅組成から求めた脱皮齢を代用。

資源量：前年の10～11月の底魚類資源量調査データ。

・ずわいがに（日本海系群）

漁獲量：各県水産試験研究機関（以下「関係機関」という。）等が集計する前漁期11月～3月の漁獲量データ、漁業・養殖業生産統計年報（農林水産省）、韓国漁獲統計資料（URL:<http://fs.fips.go.kr/main.jsp>）および全国底曳網漁業連合会資料。

努力量：沖合底びき網及び小型底びき網漁獲成績報告書（日水研）。

漁場：沖合底びき網及び小型底びき網漁獲成績報告書（日水研）。

漁獲物のサイズ：関係機関により収集された前漁期11月～3月までのデータ。

体長年齢関係：日本海区水産研究所が行ったトロール調査結果および文献値。

資源量：当年5～7月の調査船調査（トロール及び籠調査）のデータにより推定。

・ずわいがに（北海道西部系群）

漁獲量：北海道庁に提出される漁獲成績報告に基づく北水試および北海道林務部資料。

努力量：北海道庁に提出される漁獲成績報告に基づく北水試および北海道林務部資料。

漁場：漁獲成績報告に基づく北水試資料を使用。

漁獲物のサイズ：甲幅100 mm以上のオスのみが漁獲対象。

体長年齢関係：利用可能なデータなし。

資源量：利用可能なデータなし。

・さんま（太平洋北西部系群）

漁獲量：前年の6月～12月の各国の漁獲量データ。

努力量：前年8月～12月に我が国のさんま棒受網漁船に対して行った漁況調査データ。（主要水揚げ港で、入港時に漁況の聞き取り調査を行い、これから全体の操業回数を推定し、これを努力量として使用。）

漁場：前年8月～12月に我が国のさんま棒受網漁船に対して行った漁況調査データ。（主要水揚げ港で、入港時に聞き取り調査を行い、これから全体の時期別漁場の推移を推定。）

漁獲物のサイズ：我が国のさんま棒受網漁船に対し、前年8月～12月に主要水揚げ港で、入港時に漁獲物の買い上げ測定を行い、これから全体の漁獲物のサイズを推定。

体長年齢関係：漁期前調査と漁況調査データ（採集されたサンマの耳石）。

資源量：当年6月～7月の漁期前調査データにより推定。

・まあじ（太平洋系群）

漁獲量：前年 1 月～ 12 月の漁獲量データ。農林生産統計並びに関係機関等集計による主要港の前年 1 月～ 12 月の漁獲量データ。

幼魚（当歳魚）水揚量：年々の加入量に関わる指標値として、関係機関が調査する標本船（定置網等）による、漁期中の幼魚（当歳魚）の入網量、漁獲量データ。例えば宮崎県南部定置網では当年 4 月～ 6 月の当歳魚入網量を加入量水準の指標とする。

水研調査による加入量予測：当該年の加入に関わる資源量指数として、当年 4 月の九州南東海域における加入量調査結果等を参考。

努力量：J A F I C 集計による大中型まき網の努力量データ等。

漁場：J A F I C 集計による大中型まき網船の漁場データ等。

漁獲物のサイズ：関係機関（主に神奈川県～宮崎県）による水揚物の測定結果に基づく体長組成、体長体重関係等。

体長年齢関係：中央水産研究所並びに関係機関による水揚物の年齢査定結果等。

資源量：前年までの各年 1 月～ 12 月（暦年）でとりまとめた年別年齢別漁獲尾数に基づくコホート計算を行う。ただし、前年の 0 歳魚については、資源量指標値を用いて直接推定する。

・まあじ（対馬暖流系群）

漁獲量：前年 1 月～ 12 月の農林統計値（県別大海区別漁業種別魚種別漁獲量）韓国の前年の漁獲量、関係機関が集計する直近までの漁獲量データ。

努力量：九州漁業調整事務所が整備する前年の大中型まき網漁獲成績報告書、関係機関が集計する直近までのデータ。

漁場：遠洋旋網漁業組合等からの聴き取り情報。

漁獲物のサイズ：九州主要港における大中型まき網による魚種別入り数別水揚げ量の直近までのデータ、関係機関が集計する直近までのデータ。

体長年齢関係：体長組成分析等により得られるデータ（毎年見直すわけではない）。

資源量：前年 1～ 12 月の年齢別漁獲尾数に基づきコホート解析を行い推定。

・するめいか（秋季発生系群）

漁獲量：前年 1 月～ 12 月の下記漁獲量データ。

漁業養殖業生産統計年報（農水省）  
主要港月別水揚げ量（全漁連）  
北海道水産現勢（北海道）  
韓国漁獲統計資料（韓国）  
各参画機関が収集する漁獲量資料

努力量：旧中型イカ釣り船漁獲成績報告書（JAFIC）  
漁場：主要港月別水揚げ量（全漁連） 中型イカ釣り船漁獲成績報告書（JAFIC） および関係機関が収集する漁獲量資料。  
漁獲物のサイズ：日本海区水産研究所及び関係機関が収集するデータ。  
体長年齢関係：日本海区水産研究所及び関係機関が収集するデータを使用。  
資源量：当年6月～7月のイカ釣り機による漁場一斉調査データにより推定。

・するめいか（冬季発生系群）

漁獲量：前年1月～12月の漁業養殖業生産統計年報、前年4月～当年3月の全漁連水揚量、北海道水産現勢、韓国漁獲統計量、関係機関が収集した漁獲量データ。  
努力量：関係機関等集計する小型いか釣り船努力量データ。  
漁場：全漁連（主要港水揚量） JAFIC（中型いか釣り船漁獲成績報告書） 関係機関等が集計するデータ。  
漁獲物のサイズ：北水研および関係機関が収集したデータ。  
体長年齢関係：北水研および関係機関が収集したデータ。  
資源量：当年6月の漁場一斉調査結果から資源量を推定。

算定手法

前年度までの資源評価手法を踏襲。

（2）ABC再評価

ルーチン作業による毎年度の資源評価の一環として、当漁期の当初ABCの算定方法を基本に、ABCを再算定する。当漁期の当初ABCの算定方法を基本に、それ以降直近までに得られたデータを用い、ABCを再算定する。

データの種類・期間

ルーチン作業の一環なので、データの種類・期間は、当初ABCの秋季公表値算定のために用いるもの（（1）のデータ）と同じであるが、下記の魚種系群については（1）のデータに下記データを加えて再算定する。

・するめいか冬季発生系群

資源量：当年の6月の漁場一斉調査から推定した当年の資源量推定値を、関係機関により集計した当年6月～12月の小型いか釣り船のCPUEに基づいて推定した資源量推定値に更新。

臨時再評価については、状況に応じて、他魚種の事例を参考としつつ検討を行う。

### 3 作業の流れ

【7月～9月】 内部検討会及びブロック資源評価会議（水研センター主催）

・直近までの漁況も考慮して、当初 ABC 及び ABC 再評価算定を実施。

【10月】 全国資源評価会議（水産庁主催）

・直近までの漁況も考慮して、当初 ABC 及び ABC 再評価算定を実施。

（11月 当初 ABC を基に関係漁業者に資源状況・資源評価結果を説明・意見交換、パブコメを経て、水産政策審議会に当初 TAC 案を諮問（さんま、まあじ及びするめいか）。また、状況に応じ、ABC 再算定値を基に、水産政策審議会に TAC 期中改定を諮問。（各魚種））

（2月 当初 ABC を基に関係漁業者に資源状況・資源評価結果を説明・意見交換、パブコメを経て、水産政策審議会に当初 TAC 案を諮問（すけとうだら）。）

（5月 当初 ABC を基に関係漁業者に資源状況・資源評価結果を説明・意見交換、パブコメを経て、水産政策審議会に当初 TAC 案を諮問（ずわいがに）。）